

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.45 2016年12月29日(木)

高校生が自らの問題解決に取り組む これこそ「主権者としての学び」、真のアクティブ・ラーニング

私たちの歩むべき道 副議長 上野香菜

私は、様々な経済的理由で、私立高校に通うことが難しく、学びたい場所で学びたいことを、学ぶことができない人を一人でも少なくしたいと思い、この取り組みに向き合ってきました。それを形にするべく、先日行った特別分科会 MOVE2016 では、たくさんの人に学費問題について知り、考えてもらいました。そして、実際に街頭に立ち、署名活動を行いました。その結果、今日39300人もの方々の署名を集めることが出来ました。そして今回、岡山の私立高校生の代表として、多くの方々の想いを署名にのせ、県議会議長である井元議長に直接渡し、その想いを伝えてきました。今回直接伝える好機を得ましたが、そのことだけで満足せず、今後も署名を集めたりなど、岡山県高校生サミットとしてできることを最大限にしていきたいと思っております。私たちが目指すもの、それは、私立高校の学費無償化！

繋がり合い、変えていく 実行委員 大隈紗由美

このような経験を通して、私はたくさん問題に向き合うことができました。そして、私たちのすべきこと、つくるべき未来をより深く考えるようになりました。一人の力では変えることのできない大きな壁も、人と人とが繋がり合うことで、大きな力となり、世の中を変えていくことができると信じることができました。

未来を創る私たちの責任 実行委員 栗原萌々

今回、私たちが集めた署名を議長さんに直接渡し、想いを伝えることで、少しでも私学助成への理解が生れればと願っています。そして、この取り組みを通して、たくさん世の中の問題を解決に導くきっかけになればと強く思います。私たちに出来ることを私たちの手で変えていく。それが責任を持って未来を創ることです。

紙面に記されている、高校生のコメントには、学校へ通うこと、「学ぶ」ことについての認識の深まりが現れています。

自分たちの問題として私学助成運動に参加する中で、「学ぶ権利」の当事者＝主権者としての自覚が深まり、それが「未来を創る」の言葉に現れています。

これこそ「主権者教育」であり、真のアクティブ・ラーニングといえます。

これで県議会への参加は、北海道、埼玉、神奈川について4道県目です。

新年、ぜひ各県高校生の運動参加に踏み出しましょう。



▼ 2016.12.20の岡山県議会議長への署名提出・議長面談の様子が新聞に報道されました。

(2016.12.27 朝刊13面)

新聞報道

署名の岡山県議会議長提出について取材を受けました。それが新聞記事となり、12.27朝刊で大きな記事となって掲載されています。副議長の上野香菜が県議会議長に直接署名を手渡しする写真が大きく掲載され、同席をした大隈紗由美、栗原萌々が議長に伝えた想いもしっかりと書かれていました。私たち岡山県高校生サミット特別分科会の取り組みがこのように大きく取り上げられ、広く認知されたことは大きな成果であると思っております。

岡山県私学助成をすすめる会は20日、助成の増額を求める方針の署名を県議会に提出しました。井元乾一県議長が受け取りました。日本共産党の香取久紀、民主党の栗原萌々、道明学院学長が同席しました。県では私学への補助が全国で最水準で、生徒の負担は依然として重いです。私学に通う大隈紗由美も負担に感じている。

私学にだけなく、姉やこれらから通う子たちが心配せず勉強できるようにしたい。栗原萌々さん(17)は同じ勉強をしているのに、なぜ公立の友だちは無償で私たちが払わなければならないのか。負担を減らさないか。と求め、上野香菜さん(17)は「母子家庭の友人はバイトと部活を両立させずに部活をやめた」と訴えました。

会の自報事務局長は「県は国からの補助額そのままを私学助成として出していない。せめて住所家庭の子が通えなくなることはなくしてほしい」と願望。井元議長は「それはなくさなければならぬ。皆さんの想いを伝えたい」と述べました。

2016年12月27日 しんぶん赤旗